人間は水です。

ご家庭で湧き水が味わえるパイウォーター

VRπ WATER パイウォーター

アンダーシンク型
（ビルトインタイプ）

■取扱説明書■

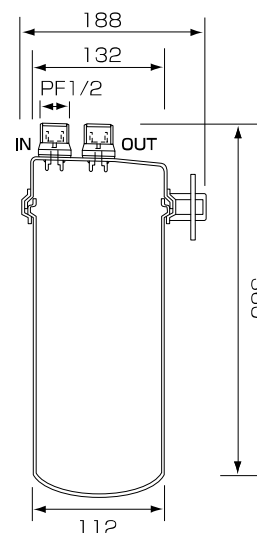
発売元 株式会社ジャパン京洋
香川県高松市新田町587-4 TEL:087-843-5558

製造元 京洋興業株式会社
東京都目黒区下目黒2-16-21 TEL:03-3491-6600

付属部品

残留塩素測定用
DPD試薬

本　体

本体サイズ

必要な部品と工具

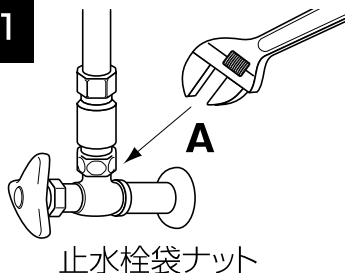
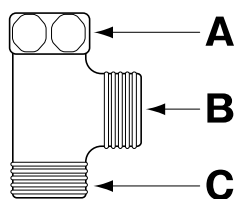
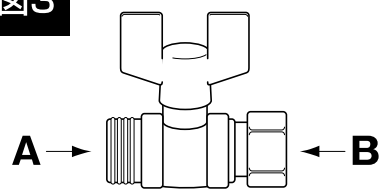
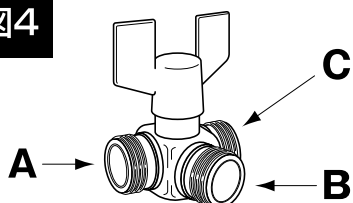
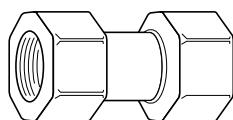
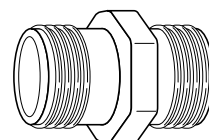
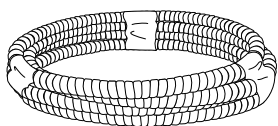
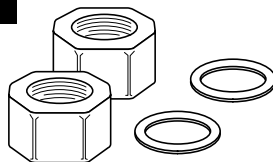
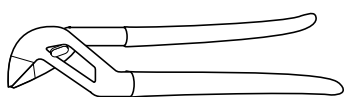
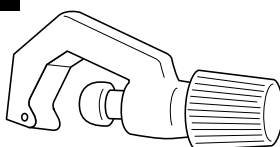
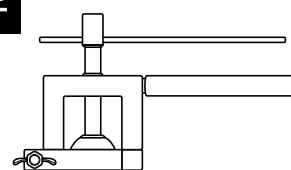
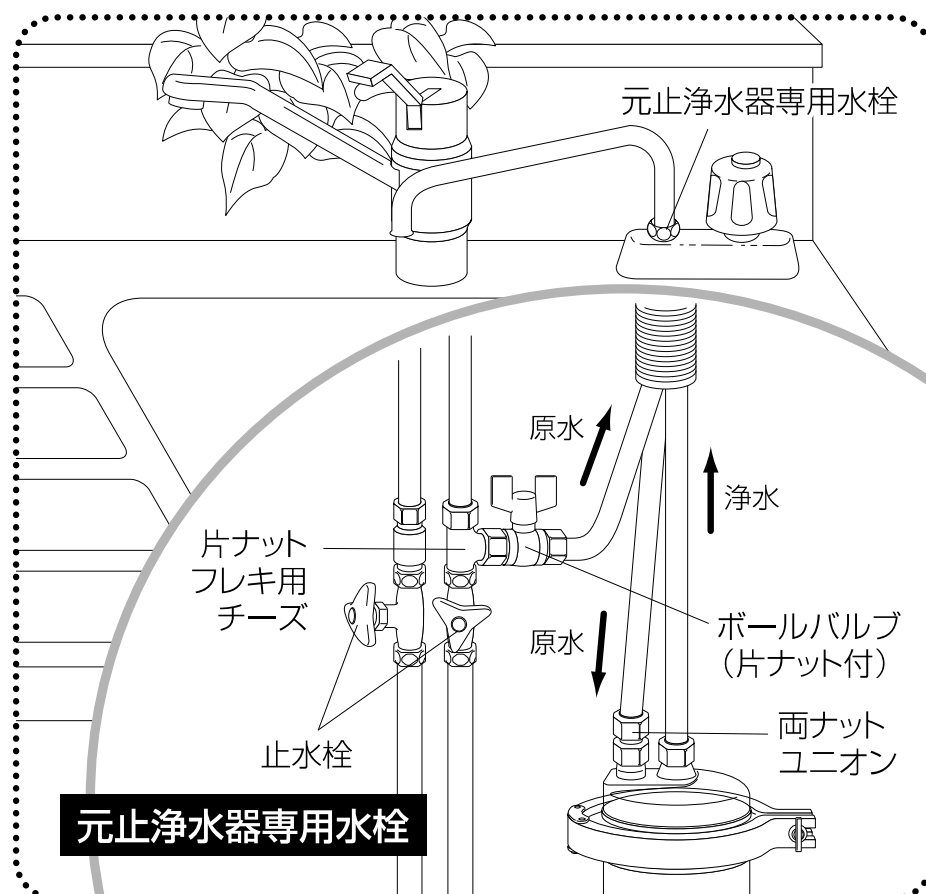
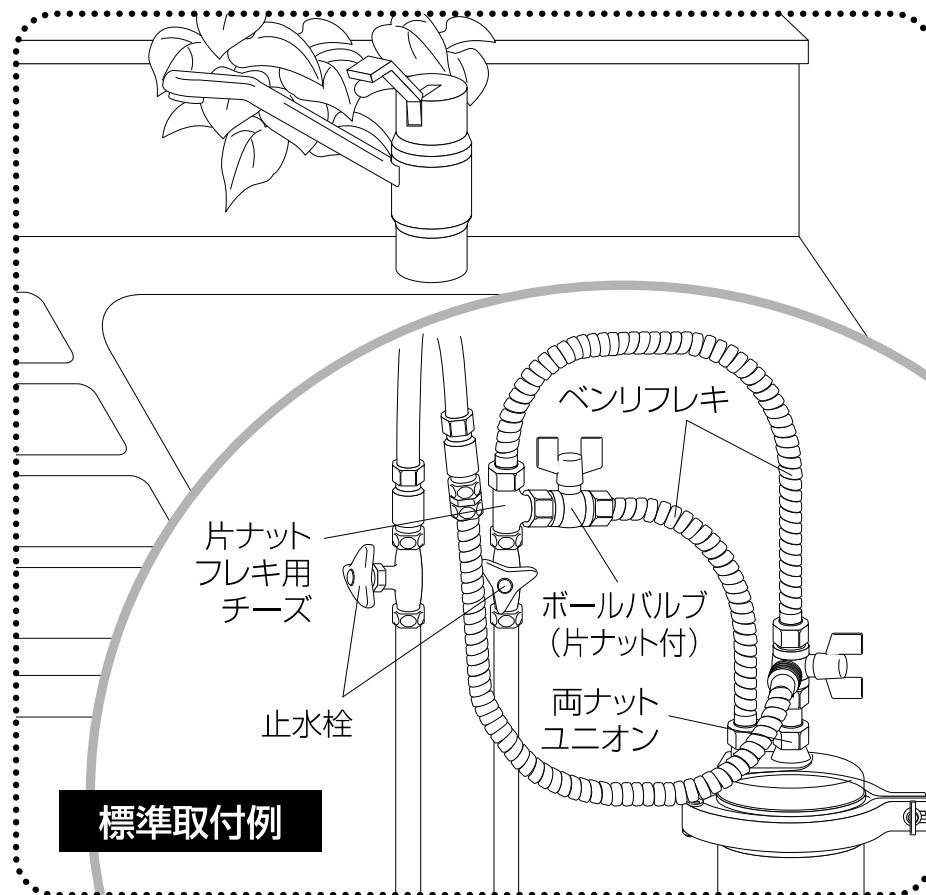



図1 A 止水栓袋ナット	図2 A B C 片ナットフレキ用チーズ	図3 A B ボールバルブ（片ナット付）
図4 C A B 三方ボール切替弁	図5 両ナットユニオン	図6 フレキパイプ用ニップル
図7 ベンリフレキ	図8 フレキ用袋ナット	図9 モンキレンチ
図10 ウォーターポンププライヤー	図11 パイプカッター	図12 ベンリフレキつば出し工具

※部品や工具は取付現場に合わせて、適宜対応して下さい。

取付例

ベンリフレキ
片ナット
フレキ用
チーズ
ボールバルブ
（片ナット付）
止水栓
両ナット
ユニオン
標準取付例

元止浄水器専用水栓
原水
浄水
片ナット
フレキ用
チーズ
ボールバルブ
（片ナット付）
原水
止水栓
両ナット
ユニオン
元止浄水器専用水栓

ご使用になる前に

●使い始めに活性炭の黒い微粉がろ過水に若干混入することがありますので、5分程通水して下さい。特に厨房機器（製氷器など）に使用する場合は、接続前に必ず充分な通水を行って下さい。

●40℃以上の温水のろ過には使用しないで下さい。

水の検査

〈残留塩素測定用 DPD試薬〉

DPD試薬（分包）は、DPD法による遊離残留塩素測定用試薬です。遊離塩素を含む水に、本試薬を加えるとその濃度に応じて淡赤紫色～赤紫色を呈します。
ご使用に際しては、以下の事項をよくお読みの上、正しくお使い下さい。

使用方法

コップに浄水後の水を取り、DPD試薬1包を加え溶解させて下さい。
（1包あたり、DPD試薬約100mgを含みます。）

※この分包はどこからでも開封できますが、開けにくい場合はハサミを使用して下さい。また、試薬を取り出した後若干試薬がフィルムに残りますが、十分量の試薬が充填されていますので、測定に影響はありません。

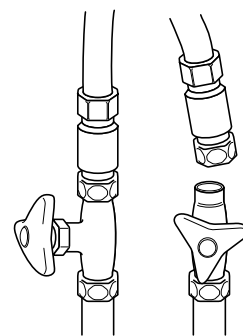
使用上の注意

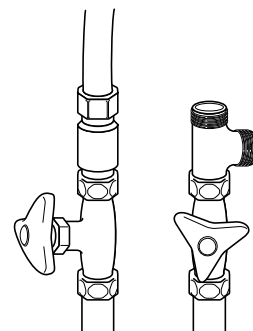
本試薬は、定められた用法で使用する限りほとんど危険性はありませんが、目や口に薬品が入らないように注意して下さい。

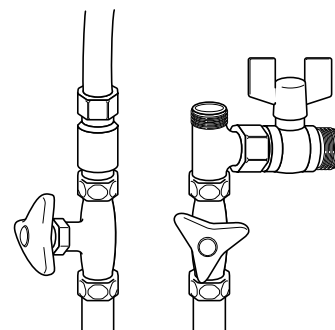
（1）直射日光を避け、なるべく湿気の少ない涼しい場所に保管して下さい。
（2）品質保持のため、袋は使用直前に開封して下さい。
（3）試薬が変色したものはご使用にならないで下さい。（保管状態により、試薬が白色から変色してしまうことがあります。）
（4）検査後のコップの水はすみやかに捨てて下さい。
（5）試薬には直接手を触れないで下さい。
（6）試薬が手や皮膚についた場合は、よく洗い流して下さい。
（7）試薬が誤って目に入ってしまった場合は、多量の水で洗い流して下さい。
（8）本試薬は食べられません。万一飲み込んでしまった場合には、胃から吐かせ、医師の手当を受けて下さい。
（9）使用後は手をよく洗って下さい。

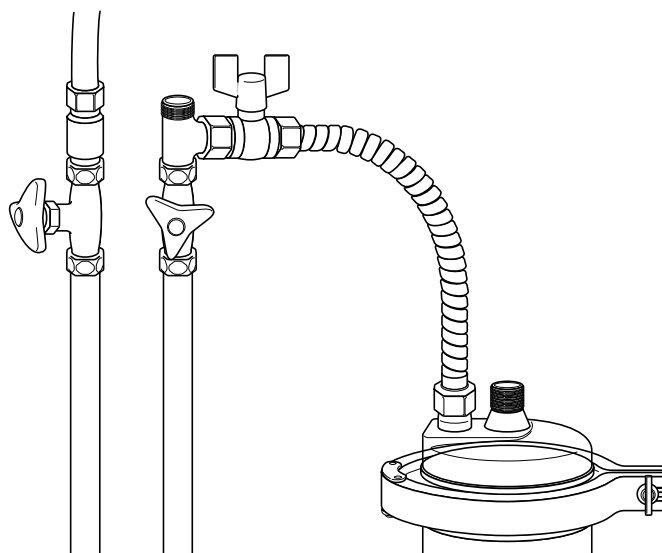
（10）乳幼児の手の届かない場所に保管して下さい。

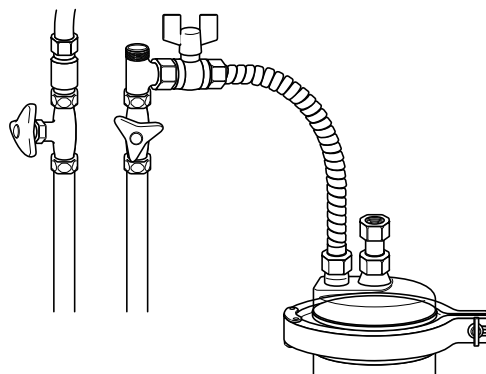
取付手順例（p.1「必要な部品と工具」を参照）

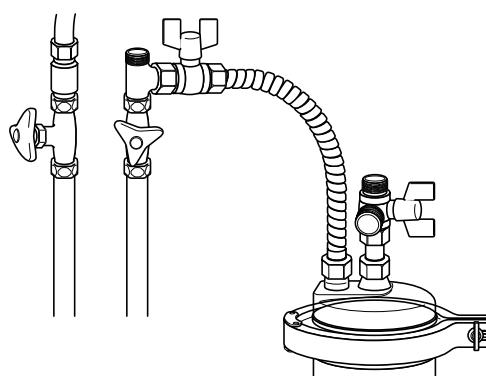
（1）水が出ないことを確認し、止水栓（水側）の既設配管を外します。（図1-A）

（2）止水栓に片ナットフレキ用チーズの袋ナット（図2-A）を接続します。

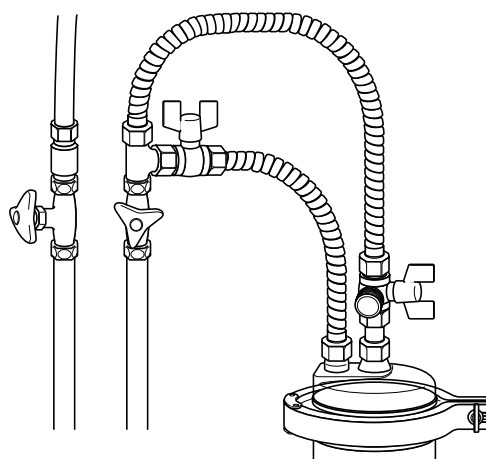
※パッキンがセットされていることをご確認下さい。

（3）片ナットフレキ用チーズのネジ部（図2-B）に、ボールバルブの袋ナット（図3-B）を接続します。

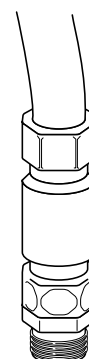
※パッキンがセットされていることをご確認下さい。

（4）ボールバルブのネジ部（図3-A）と活水器本体給水口のネジ部をベンリフレキで接続します。
ベンリフレキは、ゆとりをもった長さで取付けて下さい。

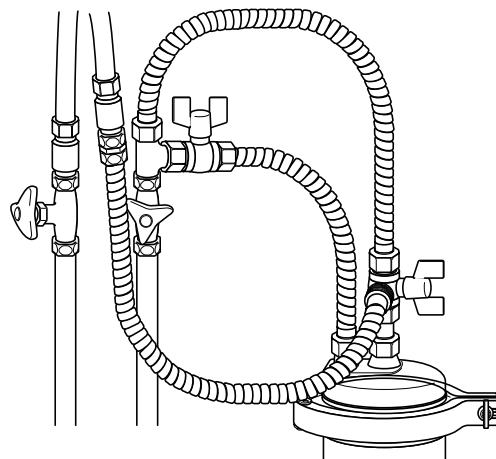
※パッキンがセットされていることをご確認下さい。

（5）活水器本体の出水口のネジ部に
両ナットユニオン（図5）片側を取付ます。
（ベンリフレキでも可）

※パッキンがセットされていることをご確認下さい。

（6）両ナットユニオン（図5）に、三方ボール
切替弁（図4-A）を接続します。

※パッキンがセットされていることをご確認下さい。

（7）片ナットフレキ用チーズのネジ部（図2-C）と、
三方ボール切替弁（図4-C）をベンリフレキで
接続します。

※パッキンがセットされていることをご確認下さい。

（8）既設配管にフレキパイプ用ニップル（図6）を
接続します。

※パッキンがセットされていることをご確認下さい。

（9）三方ボール切替弁（図4-B）と、既設配管をベンリフレキで接続してください。

※パッキンがセットされていることをご確認下さい。

※尚、この手順は一般的な取付例ですので、取付手順は現場に合わせて適宜対応して下さい。

ご使用上の注意

※5kg/㎠以上の水圧でのご使用は絶対に避けて下さい。

※朝、最初にご使用される時は、必ず45秒間ほど通水してからご使用下さい。また、48時間以上ご使用にならなかった場合は、ご使用前に必ず5分間以上は通水するようにして下さい。

※本製品は水道水など、飲料水に適合した水にご使用下さい。また、井戸水や地下水にご使用になる場合、ご使用前に必ず販売店にご相談下さい。

※断水があった場合や、近くで水道工事があった場合、鉄クズや赤水が活水器の中に入ることがあるので、他の水栓で赤水などを出し切るか、バイパスバルブを切り換え「原水」の状態でしばらく流してからご使用下さい。

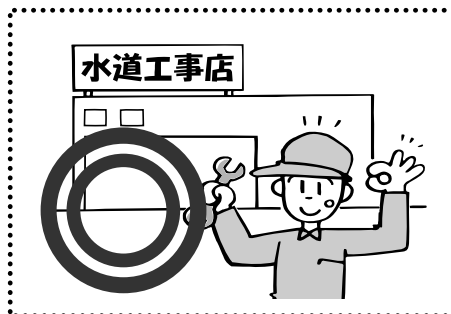
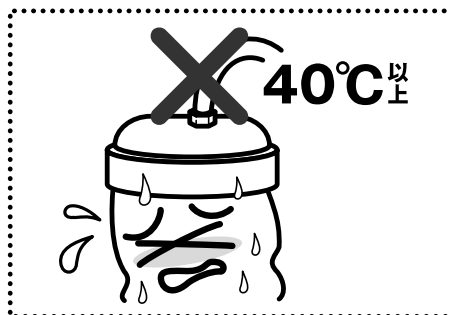
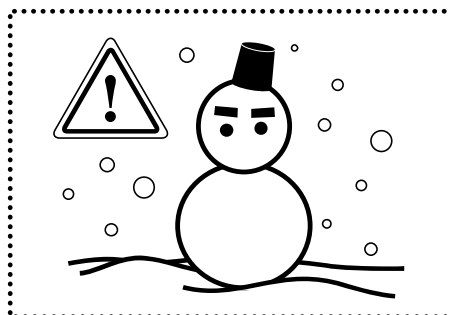
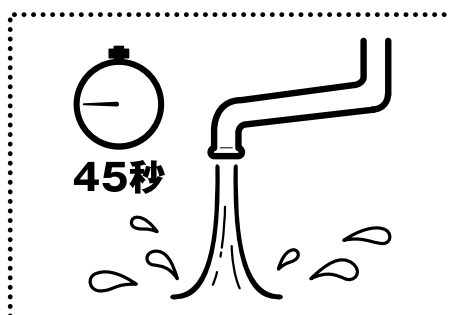
※寒冷地でのご使用はメーカー又は販売店にご相談下さい。

※通水量の目安は、50,000Lとなっております。（一般家庭の場合、キッチンでの水の使用量は1日約40Lです。）

※屋外の設置は凍りつく恐れがあるのでご使用しないで下さい。

※ベンリフレキ等は、ゆとりをもって取付けて下さい。

※取付工事は、水道工事店で取付を行って下さい。

※温度差により結露が生じる場合がありますので、その場合は活水器本体をかわいた布等でこまめにふき取って下さい。

自社基準による本製品の除去能力

弊社では本製品を実際の使用環境に設置し、独自の除去能力試験を行っています。下記の物質は、水の安全性を判断する際に特に重要とされるものです。

〈主な物質の特性〉

遊離残留塩素
次亜塩素酸と次亜塩素酸イオンのことで、水道法では給水栓における保持量が0.1ppm以上と定められている。

C A T
トリアジン系の除草剤で雑草の発生を防ぐために散布されるほか、ゴルフ場の芝生などにも使用される。

溶解性鉛
水道管から溶出した鉛のことで、神経障害、貧血、頭痛、食欲不振、鉛疝痛などの中毒症状を呈する。

総トリハロメタン
クロロホルム、ブロモジクロロメタン、ジブロモクロロメタン、ブロモホルムの各濃度の合計のことで、なかでもクロロホルムは発ガン物質であることが明らかになっている。

ダイオキシン
一般にポリクロロジベンゾパラダイオキシン（PCDD）、その一種であるテトラクロロジベンゾパラダイオキシン（2、3、7、8-TCDD）のことを指し、特に後者は急性毒性、慢性毒性、変異原性、発ガン性、催奇形性が非常に強い。

除去対象物質	処理能力	除去能力
遊離残留塩素	50,000L	90%以上
CAT（農薬）	50,000L	90%以上
カビ臭	50,000L	90%以上
溶解性鉛	50,000L	90%以上
濁り	50,000L	90%以上
総トリハロメタン	50,000L	90%以上
ダイオキシン（2、3、7、8-TCDD）	50,000L	90%以上

※データ提供:アクアR&D研究所